

常なる磐

つねなる いわ

令和2年7月10日(金)号

◇ 変化という成長

見慣れた景色の変化は、注意深く観察していないと気づくことはできないが、子供たちの成長にかかわる変化は、たとえ変化の度合いが小さくても、容易に気づくことができるから不思議だ。目に見えにくい子供の心の部分の成長が、表出された形となって表れる現象を見取ることができた時は、何とも言えない嬉しさが込み上げる。

昇降口の景色が変わってきた。この景色がとてもよい。

景色の変化に、変化をもたらした背景を想像し、重ね合わせていくことで、たくさんの要素が絡んで織り成す「変化の深さ」を見出すことができる。

きちんと手を添えて靴箱に納められた靴に、子供たちの成長がはっきり見える。子供たちの心を耕す担任の地道な指導はもちろんあるが、担任の話を受け止めて行動に移す「子供が備える素直さ」こそ、変化の最大の要因である。これは、生を受けて以降、日常生活の中で養われ、培ってきた家庭教育によるものが大きい。保護者の確かな家庭教育力が学校教育を支えてくれているのだ。感謝である。

最も価値ある支えは、上級生のさりげない行動だ。後輩の靴に手を添えて正す。教師が行う学校はある。しかし、こうした児童間の、さらに学年を超えた自浄を促す活動は例を見ない。心が洗われる。

雨の日は見逃せない景色がある。

下足が長靴に変わるが、大きな長靴を限られたスペースの靴箱に巧みにしまう。長靴の上部を棚に引っ掛けたり、横に入れたりするなど、試行錯誤の工夫がある。

もう一つは、雨傘の整頓である。

雨傘が傘立てに一行にきちんと並ぶのは、傘立てにも靴箱と同じように記名表記を施す担任のさりげない支援の賜物だ。ここまで丁寧に対応する学校はあまりないはずであるが、小規模校の特性を生かした支援の代表であるともいえる。

傘の整頓以上に価値があるのは、傘地がバンドでまとめられていること。なぜなら、バンド止めは複数の行程を要するのと同時に、水滴で手が濡れるという負の要素を覚悟して行うことにある。手が濡れれば手を拭く必要があるし、手が濡れれば、手洗いも加わる。これがふつうにできる、【あたりまえ】にできるのは、公德心を優先する心が育っている証なのである。